

NPO地域づくり工房 環境・福祉・学びあいの仕事おこし

私たちの活動理念

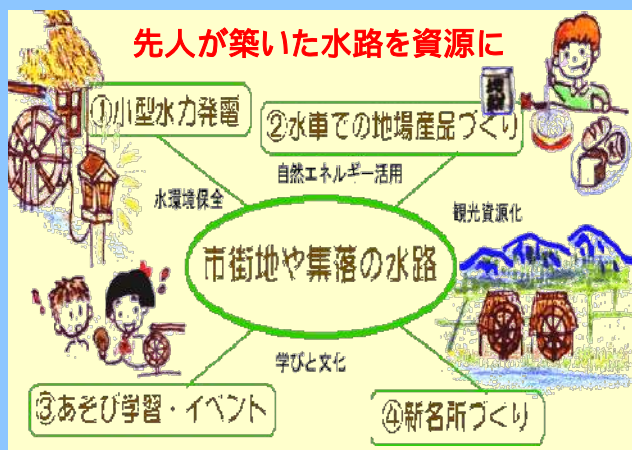
- **市民からの地域おこし**
行政まかせではなく、自分たちの力で地域づくりに貢献しよう。
- **地域の資源をいかそう**
見すてられていたものを、新しい地域づくりの資源にしよう。
- **まずは挑戦してみよう**
提案するだけでなく、実際にやってみることで変えていこう。



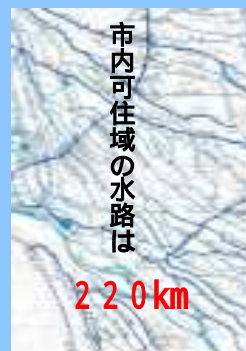
平成14年10月発足から半年間の仕事おこしワークショップから2つのエコプロジェクトが生まれました。

仕事おこしワークショップ

ぐるぐるエコプロジェクトがめざす地域の姿



水路調査を実施



仕事おこしワークショップにより、市内を網の目のように流れる農業用水路が新しい時代の資源として見出された。

3つの個性的な 水力発電実験所

技術的な課題や制度的な障壁
を実践的に検証するために、
2003年10月に3つの実験施設
を立ち上げた。



ビニールハウスの電力補給

小西水力(廃止)



川上水力

家庭の電力の
3割を補給

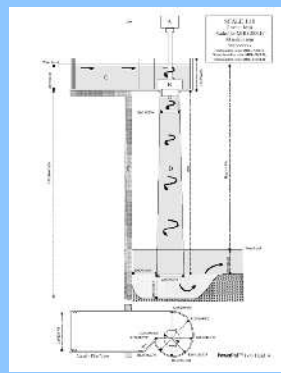


駒沢水力

野猿対策電策
で威力発揮

駒沢ミニ水力発電所

ベトナムから輸入した設置費用30
万円の発電キット。電気自動車への
蓄電や野猿対策電気柵などに利用。
落ち葉など流入物の処理が難点。



川上ミニ水力発電所

本会顧問・川上博氏が設計したシステム。
現在はオール電化住宅にすることで買電への依存度を低め、省エネを図っている。
水利権上は、個人の便宜に供する発電は認められないが、エネルギー環境学習に資するものとして許可されている。
らせん水車で流入物の処理が行いやすい。

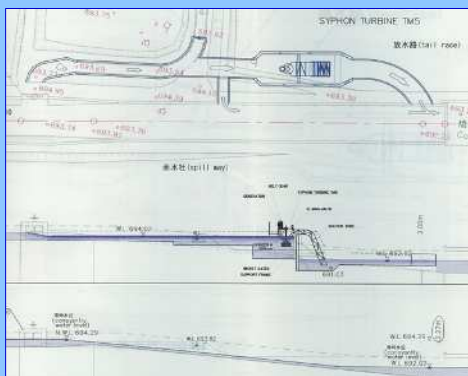


自宅前の小水路で発電

自作の変電 & 蓄電設備

小西ミニ水力発電所

ビニールハウス21基を持つ育苗家の敷地に、チェコ製の8.9kWと事業性の高い発電所を設置。地元土地改良区との対話不足等が原因で廃止に。

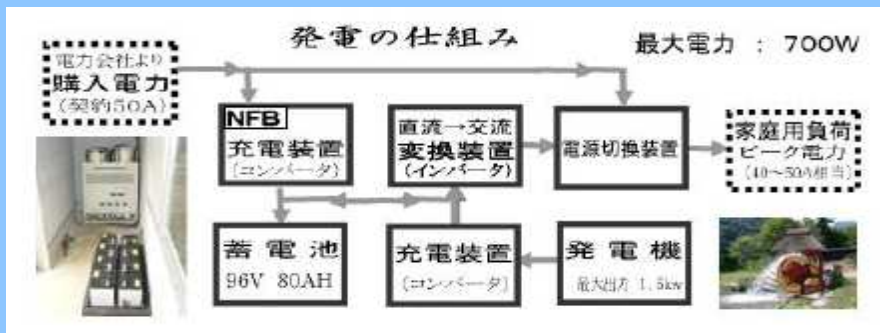


コラミ平ミニ水力発電所

漁協が運営する養漁場&釣堀園内にE S C O方式で設置(2005.9)。管理上の問題があって十分な効果を発揮していないため、新しい利用法を検討中。沢水利用のため許可を要しなかった。



県産材木を使ったクラシック水車



市民事業への模索

観光地にふさわしく「観て楽しいミニ水力」を広げようとサービスサイジング型の事業展開を模索。しかし制度の壁や採算性等の課題が山積している。10kW未満分野の有効な利用方法を開拓していくことで個性を発信していきたい。



水利使用許可書



「水路車」の試作



「ベルト式水力転換機」の試作

エコツアーでの利用

市内3つの発電所を水利権を取得して実施していることで、全国各地からの見学があり、年間600~1100人の来訪を受け入れている。発電での収入はないが、視察代が貴重な活動資金である。観て楽しい水力発電で、観光振興への寄与を模索している。



子どもたちがミニ水力発電を体験的に学ぶプログラムを提供している。



上: JICA研修員の受入れ

環境学習の推進

全国から注目されています

全国新聞(日経、読売、朝日、毎日)やテレビ(NHK「おはよう日本」、TV東京「ワールドビジネスサテライト」)をはじめ、平成18年と平成21年の『環境白書』にも活動が紹介されました。

E C O検定(東京商工会議所)のテキストにも市民事業の先進例として紹介されています。



平成17年度「地球温暖化防止活動」環境大臣表彰



大町市内のミニ水力発電の実績から試算した潜在的可能性

名称	発電実績 (kW)	資源		経費		潜在的設置可能箇所	潜在的発電量 (kW)	総建設費 (億円)
		流量 (m ³ /s)	落差 (m)	建設 (万円)	維持 (万円)			
川上	0.24	0.09	0.45	200	10	4,400	105.6	88.0
コヲミ平	0.70	0.04	3.00	210	11	800	560.0	16.8
駒沢	0.80	0.12	1.20	32	2	2,200	1,760.0	7.0
小西	7.90	0.66	2.00	1,100	30	600	5,340.0	66.0
合計	9.64					8,000	7,765.6	177.8

作成：NPO地域づくり工房

注1：発電量や流量は一定ではないため実績値の平均で示した

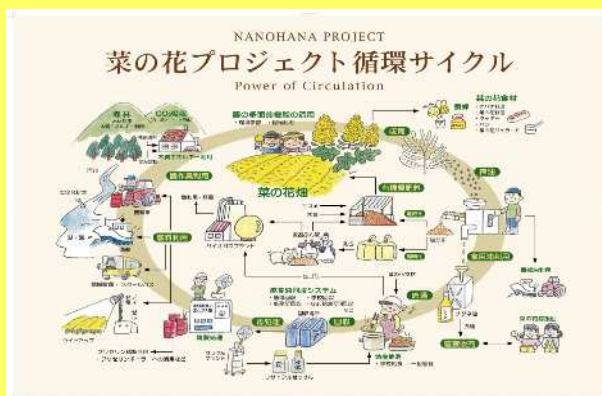
注2：建設費には水利許可手続きの経費を含んでいない。維持管理費は20年間運用の想定で試算

注3：潜在的設置箇所は水路のタイプ別に50m間隔で試算したもの

国産の発電機の場合はコストが高いが、輸入品（駒沢水力、小西水力）の場合は建設コストが比較的安くなる。汎用性があり、安価な発電機の開発が国内で普及していくための課題であることが伺える。

仕事おこしワークショップ

菜の花エコプロジェクト当初めざしていた循環



ワークショップでは、閉鎖されたスキー場や休耕地、温泉郷から出る生ごみや廃食油、働く意欲のある高齢者や障害者、働ける力のある冬場の建設労働者が「資源」として見出された。



休耕地の実地調査



飲食店アンケート調査



名古屋の作業所を視察

実証実験の開始

事業ニーズを検証するために、障害者作業所と連携して、市街地の飲食店(10店)からの廃油回収を試みた。3ヶ月で600ℓが回収され、処理代金も負担になっていることが分かった。

そこで試験的にバイオ軽油製造機をレンタルして、事業化を模索することとなった。



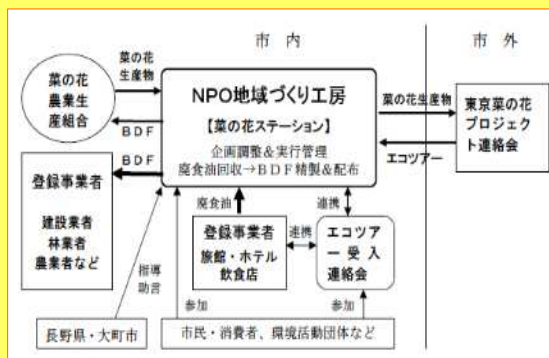
作業所の仲間とともに回収依頼



作業所の仲間に作業内容を説明

市民事業への模索

環境省エコ・コミュニティモデル事業(平成17年度)に採択され、中心市街地の空き店舗に作業所を仮設し、市民への理解を広げながら、連携体制を構築した。



空き店舗での作業展示



消費者リーダーの会見学



子どもたちへの環境学習

諸規制への挑戦

当初「有価物」で扱っていたが、県の指導により再生活用業と再生輸送業の指定を受けることとなった。また、軽油引取税の制約をふまえて、公道以外での利用方法を開拓した。



国営あづみの公園のイルミネーション

酒沢小屋の発電機に



再生輸送業・再生活用業の指定

1年半かけて再生輸送業と再生活用業の指定が得られ、大町市との協働により学校や家庭からの廃食油の回収とごみ収集車でのバイオ軽油利用が始まった。



菜種生産の試み

試行錯誤の中から、菜の花農業生産組合（7農家）が組織され、廃止されたスキー場で、蕎麦と菜種の混作で生産を開始（2004年）



夏に蕎麦の花が、春に菜の花が



障害者作業所の仲間とともに、在来種での搾油作業を体験し、搾りたての美味しさと作業の大変さを実感（2003年）



菜種ヴァージンオイルの商品化

当初「菜種油 = てんぷら油」の発想しかなかったが、フレンチの鉄人・石鍋裕シェフの助言により、日本唯一の「自家焙煎&自然ろ過、注文搾油方式」の調味用オイルとして商品化することとなった。



東京都「食の安心登録制度」にて生産情報を公開



手づくり、搾りたて。新鮮で味も最上（石鍋シェフ）



エコツアーでの利用



JICA
研修

石鍋シェフとピクニック



民宿の送迎バス



廃食油、バイオ軽油、なたねオイルの3つの花で協力を示すステッカー



環境学習の推進

全国から注目されています

全国紙(読売、朝日)やテレビ東京「ワールドビジネスサテライト」、TBSラジオ「荒川強啓のデイ・キャッチ」、雑誌『和楽』(小学館)をはじめ、平成18年『循環型社会形成白書』にも活動が紹介された。2008年5月には第8回全国菜の花サミットin信州・大町が開催され、全国から600人余が集った。



読売新聞



朝日新聞



食油文化の再生で環境貢献

バイオ軽油利用によるCO₂削減量

72,864 kg-CO₂/年 (27,600ℓ / 年を軽油換算)

事業種類	営業規模	回収量 (ℓ/月)	回収回数 (回/月)
宿泊系	ホテル 9	収容1606名	58
	旅館 3	収容 138名	7
	民宿 2	収容 30名	1
	15	収容1774名	66
店舗系	飲食店 6	収容 305席	16
	食料品 2		14
	8		30
公的機関	食堂関係 3	収容460人	4
	学校園 17		32
	環境プラント		2
	21		38
白馬エコスキー場研究会	白馬村内の6スキー場	6	約 100%
合計 43件		140	約2,300%

市内の休耕田での
菜種栽培を支援



菜種生産による荒廃地解消

20ヘクタール

平成18年度長野県農業構造
政策推進活動功績者表彰
(遊休農地解消機関・団体等の部)

知事賞受賞

【菜の花農業生産組合】



食油文化の再生で地域おこし

これからの展開

新パッケージ

大町市の新しい観光みやげとして、
付加価値の高い品質と包装で再出発
(製作中、2010年1月スタート)

菜種オイルソムリエ

年度や産地、搾り方などでそれぞれに味
も風味も違う菜種オイルの食文化を演出
できる担い手を広げていくための講座を
立ち上げる。(2010年2月スタート)

様々な使われ方の開拓

「信州は江戸の油田」といわれ、その
使われ方も多様だった。食油の文化を
豊かな姿で再現したい。

「地あぶら」の掘りおこし

地域にある様々な油脂
植物(ぶどう種、鬼
胡桃、桑の実など)
でのヴァージンオイ
ルづくりに挑戦し、
特産品に。



エコツアー
(体験学習旅行)

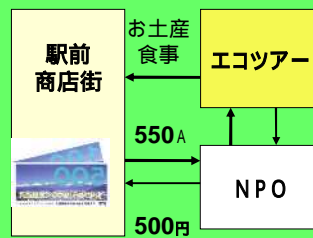
2つのエコプロジェクトをはじめ、地元のさまざまな活動と協力しあって、全国からエコツアーを受け入れています。
< 年間600～1100人を受け入れ >



日本で唯一の新バスもくちゃん



合鴨農法研究会 わっぱらんど 大黒町里山



地域通貨アルペンの利用

**地域づくりの
おてつだい**

市民活動の事務局機能や、自治会のおてつだいをしています。



北アルプス自由市場



残雪に花ウォーキング



僕らのまちの
体温測定



まちの安心マ
ップづくり

地域づくりの
おてつだい

信州の養蚕を支えた天然冷蔵庫「風穴」を新しい時代の自然エネルギーとして復元利用する試み。



鷹狩風穴の復元(南鷹狩山自然保護会)



そば焼酎を熟成させ商品化

地域づくりの
おてつだい

音楽やアニメなどさまざまな切り口から地域づくりをすすめています。



「僕らのグランドゼロ」ライブ



空き店舗を使ったライブ



愛とヒューマンの
コンサート

オウムの犠牲となった坂本龍彦ちゃんをしのぶ音楽巡礼の受入れ

「まちへ行こう！」プロジェクト

2005年2月の大火をきっかけに、音楽仲間とともに始まり、21回を数えています。

みずほプロジェクト

～2017年の木崎湖も美しく～

アニメの舞台 きれいに



アニメファンとともに清掃活動

学ぶ活動

地域づくり学習会

テーマ持ちよりで大町市の過去・現在・未来を語り合い、『市民白書』にまとめる。

第1回は近現代産業史を学んだ。

大系タイムズ

平成29年（2017年）9月26日（金曜日）

出題者の古典読み解く
地域づくり工房が講座

4年目となる学習会

第三期のテーマは「経済学の古典に学ぶ地域の自立」

古典に学ぶ連続講座

地域資源掘り起こそう

池田町・松川村・生坂村の商工会青年部による次世代育成研修でのファシリテート

仕事おこし、環境診断マップづくり、安心・安全マップづくり、アセス対策などの対話を支援

ワークショップのお手伝い

環境・福祉・学びあいの仕事おこし NPO地域づくり工房

ぜひ会員となって
支えてください！

個人会費 3000円
(5年12000円)

家族会費 4000円
(5年16000円)

団体会費 5000円

寄付も大歓迎！

1本 940円 100ml

長野県大町市
人口3万人余

ようこそ！ロハスな大町へ

川上博著
パワー社
1600円

傘木宏夫著
自治体研究社
1400円

ぜひお越しください！